

Tea Time

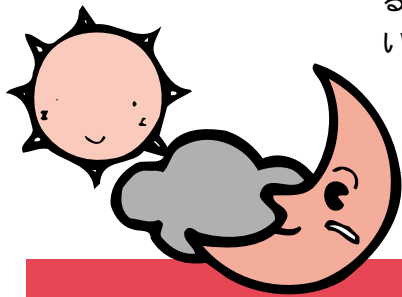
ティー・タイム



楽しい歳時記

冬至と大晦日

北風が吹きすさび、日ごとに寒さが加わる12月。落葉樹はすでに葉を振るい落として、山野は雪化粧を待つばかり。月も半ばに入ると慌たしい歳末気分があふれ、長いようで短かった1年を実感する時期です。



冬至

一年中で昼がもっとも短く、夜がもっとも長い日。東京では、昼間の時間は9時間半程度しかありません。この日を境に再び昼が長くなっていくので、太陽が甦る日、「一陽来福」の日とされ、昔は冬至を新年としたことがあります。キリストが誕生したというクリスマスは、太陽の復活に合わせて決められたという説もあります。この日から日照時間が増えるからといっても、太陽の熱を地球が受けて暖くなるには、約45日かかります。つまり、立春の頃から暖かくなっていくのです。そのため、旧暦(太陰太陽暦)は、年の始めを立春とするのです。また、冬至が新年だったという名残がゆず湯です。入って温まるといより、清めの意味が強かったようです。そして小豆がゆやカボチャ、コンニャクを食べますが、これは長生きと幸せを願う一種のおせち料理ということになります。

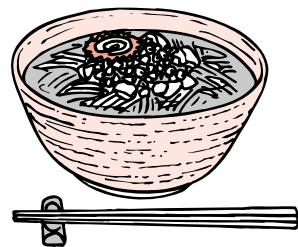
大晦日

人々の動きが慌ただしくなる師走。年内のうちに済ませておきたい用事とか、忘年会やクリスマスパーティー、さらにはお歳暮を贈ったり、そうこうしているうちに、すぐ大晦日はやってきます。1月から11月までの最後の日は晦日、12月最後の日を大晦日といひます。かつて大晦日というと、どのご家庭でも紅白歌合戦を見るのが恒例のようなことがありましたが、昨今は思い思いに過ごすようになりました。しかし、時代は変わっても年越しソバを食べることに関しては、今も続いている風習です。特に大晦日のソバ屋さんは店内も、お持ち帰りも、長い行列で大繁盛。昔から、ソバのように長く、幸福に寿命を延ばすことができるといわれています。この風習だけは、これからも未永く続きそうです。

*ひとくメモ ご存知ですか?「冬日と真冬日」

1日の最低気温が0度以下の日を冬日といひます。最高気温が0度未満になると真冬日です。

冬日になるのは大阪では15日くらい、東京だと30日くらい。寒い地方、例えば旭川の真冬日は平均81日、冬日は161日にもなります。



MEMO

富士火災海上保険株式会社

担当